

遠隔授業配信センター

離島や山間部にある小規模校の生徒が、遠隔授業配信センターによるライブ配信の授業に参加し、単位認定を受ける「遠隔授業」が令和6年度、県立高校5校で始まりました。

1 目的

小規模校における教科指導等の更なる充実

小規模校においては、教員数が少なく多彩な選択科目や習熟度別授業を開講することが困難な場合もあることから、遠隔授業の導入により、大学入試に対応した科目や習熟度別授業を充実させることで、県内のどの地域からでも、生徒が第一志望先とする進路を目指せる教育環境の実現を図ります。

2 受信校

5校延べ109人の生徒が遠隔授業に参加しています。

- ① 弓削高校
➢ 数学C、物理
- ② 松山北高校中島分校
➢ 数学C
- ③ 上浮穴高校
➢ 情報I
- ④ 内子高校小田分校
➢ 数学Ⅲ、数学C
- ⑤ 三崎高校
➢ 物理基礎、物理、情報I



弓削高校



松山北高校中島分校



上浮穴高校



内子高校小田分校



三崎高校

3 遠隔授業の概要

遠隔授業配信センターの教員は、「Microsoft Teams」のWeb会議機能を活用して授業を配信し、受信校の生徒とリアルタイムでコミュニケーションを取りながら授業を進めています。また、必要に応じて受信校を訪問して、対面での授業も行っています。

事例① 数学Ⅲ、数学C

数学の授業では、電子黒板上に表示したスライドを使用して説明を行っています。また、デジタル教材を積極的に活用して立体図形のイメージの形成や関数のシミュレーションなどを行い、数学的思考力を育成しています。



配信の様子



対面授業の様子

事例② 情報I

情報の授業では、多くの生徒が参加するため、グループワークで課題に取り組む場面や、一人一台の端末を活用してネットワーク上で意見を共有する場面などを取り入れながら、学習を進めています。



配信の様子



一人一台端末の活用

事例③ 物理

物理の授業では、電子黒板とホワイトボードを併用して、原理の理解や問題演習に取り組んでいます。デジタル教材を使って物理現象を視覚的に理解したり、数式を活用する場面では従来の板書を活用したりするなど、様々な方法を組み合わせる工夫を行っています。



配信の様子（電子黒板）



配信の様子（ホワイトボード）

4 今後の展望

令和7年度からは、各校のニーズに基づき、地理の遠隔授業も一年間を通じて配信する予定です。さらに、遠隔授業の受信校を拡大することで、小規模校の教育環境の充実を図ることとしています。また、令和8年度からは、新設する北条清新高校内に「遠隔授業配信センター」の機能を移管することとしています。